

令和3年度 和田幼稚園 幼稚園経営要綱

田名橋学園 和田幼稚園

1 和田幼稚園経営の基盤

和田幼稚園（以下「本園」という。）は、教育基本法（平成18年法律第120号）、就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）及び子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）その他の関係法令を遵守して運営する。

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律及び子ども・子育て支援法の規定に従い、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を教育・保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。

- (1)本園は、安心・安定した情緒と落ち着いた環境の中で、自ら学ぼうとする意欲を育て、健やかで豊かな心と体が育つよう教育・保育を行うものとする。（幼児期にふさわしい生活の展開：安定した情緒の下で自己発揮できる）
- (2)本園は、幼児の自発的な活動としての遊びが心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として総合的に達成されるものとする。（遊びを通しての総合的な指導）
- (3)本園は、教育・保育に関する専門性を有する職員が、家庭との密接な連携の下に、子どもの状況や発達過程を踏まえ、教育と保育を一体的に行うものとする。（一人ひとりの特性に応じた：個々の課題を見つけ、関わり方も変える）

2 田名橋学園の運営方針

(1)安全・安心な園づくり

子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する。

(2)幼児教育の更なる充実

通常の教育のほかに、英語遊び、お茶遊び、運動遊びなどの補保育を導入して教育の更なる充実を図る。

(3)人間形成の基礎づくり

基本的な生活習慣が身につくように援助し、自ら様々な環境に関わり、試行錯誤を繰り返しながら自分らしき人間形成の基礎づくりを推進する。

3 教育理念「あかるく たくましく かんがえる」

教育方針「あかるく、たくましく、かんがえる創造性豊かな人格形成の基盤を養うことを主な方針とする」

- あかるく、たくましく、かんがえる創造性豊かな子を目標とし、一人一人の関わりを大切にする
- 自然を営む環境の中で、多様な経験をし、成長、発達を促す
- 規則正しい生活習慣を身につけ自発的に行動できるように助長する

生きる力（知徳体のバランスのとれた力）

「あかるく」（豊かな人間性）（徳）

（自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など）

「たくましく」（健康・体力）（体）

（たくましく生きるための健康や体力）

「かんがえる」（主体性・学ぶ力・考える力・創造力）（知）

（基礎基本を確実に身につけ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力）

4 和田幼稚園が目指す子ども像

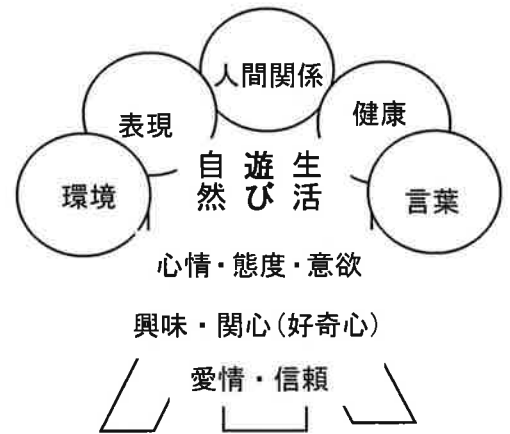
和田幼稚園が目標とする子ども像

心と体の育ち（根っこ）が育まれることで3つの芽が育つ

人との関わりを大切にする子（社会性の芽）

自分を信じ、最後までやり抜く子（自信の芽）

気付き考え行動する子（学びの芽）



乳幼児（0歳～6歳）の発達は、心と体（根っこ）の発達である。自立心（「やってみたい」心を育てる）（自立期）→ 自律心（「がんばる」努力・我慢する心を育てる）（自律期）→ 共感（「ありがとう」思いやりの心を育てる）（共感期）→ 協同性（「みんなと目標に向かって協同していく」）→ 自分を信じる（自信を築く）という段階をステップアップしながら、「生きる力」へと向かっていく。幼児は、保育者（身近な大人）や幼稚園という環境への信頼関係を築き、基本的な生活習慣を保育者や回りの大人に支えてもらいながら、一緒に取り組み、保育者（身近な大人）が見守りながら、自分の力（自分の意思）でやってみることでさまざまな経験や体験を通して、自立に向かう入口に立つことができる。自立するためには責任について学ぶ必要がある。自立期にさまざまな経験や体験をすることで、自律期に自らの行動や気持ちを調整し、コントロールできる力を学んでいく。この時期に規則正しい生活を身につけ、自分のことは自分とする習慣づけることで社会のルールを理解するようになる。共感期では、相手の気持ちを想像する力（思いやりや優しさ）を育てる。相手の気持ちを理解するためには相手の立場にたって考えるという共感脳（心の理論）の発達が必要です。共同作業や幅広い人間関係の中で、自分の考えと人の考えが違うことを理解する。ルールやマナーについての違いが分かるようになる。今までルールとして覚えていたことを、自分なりの解釈で理解できるようになる。時に反発したりもするが、状況に応じて異なる態度ができるようになる。自分を信じる（自信を築く）ことで、次のステージへと進んでいく。

6歳児	自己肯定感	自分を信じる（自信を築く）（「やり抜く」の心を育てる）
5歳児	共感期	共感（「ありがとう」の心を育てる）
4歳児	自律期	自律（「がんばる」心を育てる）
3歳児	自立期	自立（「やってみたい」心を育てる）
2歳児	秩序期	「わかった」「できた」という経験が集中力を養う
1歳児	実験期	「やる気」という経験が達成感につながる
0歳児	感覚期	好奇心を引き出し、五感を刺激する「楽しい」を育てる

5 和田幼稚園が目標とする保育者像

和田幼稚園が目標とする保育者像 ～子どもたちの心に沁みわたる保育を目指して～

- 保護者・地域社会から信頼される元気で明朗な先生
- 子どもの目線に立ち、子どもの心に目を向ける子どもから信頼される先生（子どもを尊重する）
- 幼児理解を深め専門職としての力量と責任を持ち、常に学ぶ姿勢を忘れない先生（保育のプロフェッショナルとして）
- 保育者間で協働し合い子どもたちの成長を見つめる先生（同僚性）（チームワーク）

- 安全〈大切な命を預かること〉(安全管理、危機管理、園生活の保障)
- 安心〈専門性、信頼、開かれた〉園児との信頼関係を構築(愛情・共感・傾聴)
- 「主体的・対話的で深い学び」子どもとの対話を大切にしてい(子どもの気づきや発想を大切に)
- 子どもたちを観察する・子どもたちと関わる・子どもたちとともに園生活を創っていく
- 基本的生活習慣(身の自立)を援助する(家庭と協力しながら)
- 見本になる(生活態度を伝えていく、安心感を得る等)
- 年齢に応じた関わり方(見守る、観察)年齢に応じた声掛け、問いかけ(一人ひとりの声掛けを大切に)
- 環境を整える(環境構成)興味関心(「子どもたちの「やってみよう」気持ちを大切に)
- 集団生活をつくっていく子どもたちを支援する
- 遊びや環境を通して、子どもの学びを深める(遊びを通して、環境を通して、教育及び保育を行う)
- 自然との関わりを大切にす ●「食べることは生きること」食育を大切にしてい
- PDCA サイクルを回す(子ども理解)→指導計画(P)→日々の保育(D)→振り返り(C)→改善・修正(A)

- ① 身近な環境に出会う
- ② 興味・関心をもつ (何だろう? おもしろそう)
- ③ 好奇心をもってかかわる (やってみよう)
- ④ 気づく・考える・発見・疑問 (なぜ? どうして?)
- ⑤ イメージを広げる・発想する (あついいこと思いついた)
- ⑥ 繰り返し試す・工夫する (こうやってみよう)
- ⑦ 探究する (こうやると どうなる?)
- ⑧ 充実感・満足感を味わう (やった~できた)
- ⑨ 自信・意欲をもつ (今度はあれをやってみようかな?)

環境(ヒト、もの、こと)を
通して行う教育
遊びを通して行う教育

●「遊び」の中から学ぶ」遊び・環境を通して育つ

子どもたちが主体的にいろいろなものに関わり、試行錯誤しながら自分にとっての意味を見出していく。遊びは、運動能力の向上はもとより、自然の科学的理解の基礎を与え、また、協調性や創造性、判断力その他の人格形成や社会生活の訓練等、極めて重要な役割を有する行為である。

●豊かな感性と思考力の芽生えと想像的創造力を育む(希望や夢をもつことにつながる)(真似る→学ぶ)

1歳半頃になると、砂をプリンに、積み木を自動車に見立てて遊ぶなど、自分のイメージをもつようになる。豊かなイメージは、想像性や創造性、社会性などの基盤になる。1歳半頃からイメージをもてるようになり、4歳以降になると友だちとイメージを共有して「ごっこ遊び」を楽しむようになります。こうした遊びを通し、イメージをもつ力はより豊かになり、友だちと協同することで社会性も高まる。経験が豊かであるほど、イメージの世界というのは豊かになる。豊かな環境の中で心を動かす体験や経験を積み重ねることで感性、想像性や創造性、社会性が豊かになっていく。

●子どもたちが「決定を下し、問題を解決し、自己制御を行い、ルールに従う」ということを学ぶ

例えばゲームを行っているなら、課せられた制限を受け入れ、自分自身の行動を律し、ルールに従う必要がある。これらを通して子どもたちは自分の世界の中で達成感を得られるようになる。

●子どもが友だちと遊ぶことは、互いを公平に扱うことを学ぶ

遊びは自発的なものであり、遊び相手は不快を感じるといつでも遊びから抜けてしまうことができる。子どもたちは遊び相手の気持ちを知り、遊びを続けるために必要なことを学ぼうとすることで、社会性を身につけていく。相手の気持ちを感じて、自分の気持ちを調整し、相手に合わせるなどといったコミュニケーション能力も身につけていく。

3つの柱

遊びを通しての総合的な指導



知識・技能

豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、わかったり、できるようになったりする「知識・技能の基礎」



学びに向かう力・人間性

心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を育むか



思考力・判断力・表現力など

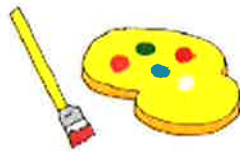
気付いたことやできるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力・判断力・表現力などの基礎」

資質・能力の3つの柱は個別に取り出して身に付けるものではなく、遊びを通しての総合的な指導を行い、一体的に育むことが重要

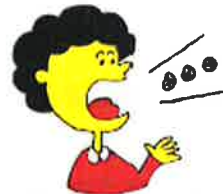
環境を通して行う教育



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



豊かな感性と表現



言葉による伝え合い



協同性



健康な心と体

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

「領域」の内、特に幼児期の終わりまでに育ってほしい10の具体的な姿
×「領域」とは「身体・幼児教育において育みたい10の領域、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」



自立心



自然との関わり生命尊重



思考力の芽生え



社会生活との関わり



道徳性・規範意識の芽生え



※「10の姿」は到達すべき目標ではなく、子どもたちの主体的な学びを通じて、総合的に育まれるものです。

「未来を生きる子どもたちのために—幼児教育をもっと豊かに—」

全日本私立幼稚園連合会・全日本私立幼稚園PTA連合会・(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構